

令和8年度
近畿大学大学院 総合文化研究科 入学試験
【一般】

日 本 文 学 専 攻
外 国 語 科 目 試 験 問 題

言語・文学コース【日本語】

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をお読みください。

- 1) 解答はじめの合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2) 机のうえには、受験票、HBの黒鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り(電動式は除く)、時計(時計機能だけのもの)、眼鏡以外のものは置かないでください。
- 3) 辞書については、持ち込みを許可されている専攻・コースのみ使用可能です。(電子辞書は除く)
- 4) 試験開始後、解答用紙に受験番号・氏名を記入してください。
- 5) 試験開始後に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気が付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 6) 試験終了後、問題冊子はお持ち帰りください。

令和8年2月21日実施

次の文章を読んで、後の【問題1】から【問題3】に日本語で答えなさい。

※救恤…救済、助けること

(福沢諭吉『学問の独立』による)

【問題1】

【問題2】

【問題3】

※あらかじめ問題を蓄積して活用し、複数回実施を可能とするため試験問題を非公開とする。

【出題意図】

【問題1】 文中の前半の趣旨である「学問」と「政治」の位置づけの違いについて問うことで、引用文の骨子と要点の理解力を判定する問題とした。明治期の文章なので、古めかしい言い回しが用いられていることも含めて、論説や論文への理解力の基礎となる日本語力を問うことを目的とする。

【問題2】 文中で似たところがある撰生法と治療法の類似性を踏まえた上で、両者がどのように異なっているのかを問う問題で、文章の読解力と把握力を測定する。

【問題3】

【問題1】 で前半の要旨を問うたのに続き、後半の要旨を把握しているかをみるための出題。著者がこの時代において、国と国家に対して何を求めているのかを読み解ければ、出題文の要点をとらえたことになる。受験生によつては現在の国との関わり方を想起するものもあるかもしれないが、あくまで文章に定位して、書き手がどのように要望しているかを公正に読み取る力を求める出題文である。